**ヴェーカーナンダ・ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・シカゴ、**

**スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ生誕150周年を祝う「シカゴ・コーリング」開催**

1893年9月11日、スワーミー・ヴィヴェーカーナンダはシカゴ万国宗教会議で演説をして聴衆を熱狂させ、アメリカにヒンドゥー教を知らしめました。ヴェーカーナンダ・ヴェーダーンタ・ソサエティ・オブ・シカゴ（Vivekananda Vedanta Society of Chicago、以下「シカゴ・センター」）はスワーミージの生誕150周年を祝し、2013年11月9日から2日間にわたり市中心部のヒルトン・ホテルにて会議「シカゴ・コーリング（Chicago Calling）」を開催しました。ヒンドゥー教徒やオレンジ色の僧衣に身を包んだ僧侶を見かけるのはごく一般的となった現代のシカゴに、世界各地から50名の僧侶や尼僧が集まりました。会議の1日目は、スワーミージが私たちに残した遺産の大きさを様々な面から考察しました。

初めに、Asheesh Sen氏がイリノイ州知事Pat Quinn氏からの歓迎の言葉を代読しました。Quinn氏は少し前に、9月28日を「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダの日（Swami Vivekananda Day）」とすることを全州に向けて発表しました。続いてSwami Mahayoganandaが、ラーマクリシュナ僧団の長であるSwami Atmasthanandaからの祝辞を代読し、無限の自己を希求し自我の限界を超越するようアメリカ国民に呼びかけたスワーミージの1893年9月28日の演説を引用しました。

その後、午前・午後を通じて数々のスピーチが次々と行われ、スピーチの合間にはこのイベントにふさわしい素晴らしい文化プログラムが披露されました。コルカタから来たMoumita Chatterjee氏がインドの古典音楽を、Radhika Balerao氏がスワーミージ作の主シヴァの賛歌を、Swami Gauranganandaがバジャンを、Pritam Bhattacharjee氏がインドの古典的な賛歌を披露しました。また、Prithwiraj Bhattacharjee氏が、タブラのソロ演奏を行いました。そして、最後の文化プログラムとして、Minoo Pashupathi 氏のリードでUniversity of Chicago South Asian Vocal Ensembleがインドのフュージョン（音楽）を披露しました。

「Chicago Calling」の講演者と、スワーミージに関するその講演の要旨は次の通りです。

Swami Chetanananda（Vedanta Society of St. Louisの長）「ナレンドラナートからスワーミー・ヴィヴェーカーナンダへの変化（The transformation from Narendranath to Swami Vivekananda）」：変貌を遂げる前と遂げた後とのスワーミージについて比較を行った。スワーミージは当初、非二元論（アドワイタ）や輪廻転生、グルの教え、神の化身などを信じていなかった。が、ラーマクリシュナが繰り返し説いた無私の奉仕の理想を吸収し、鉄の意志と限りなく広がるビジョンを持った普遍的人間へと変化し、スワーミージの話を聞く者はその力強い眼差しに釘付けとなった。

Swami Yogatmananda（Vedanta Society of Providence）「ヒンドゥー教とその影響の再定義におけるスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの役割（Role of Swami Vivekananda in Redefining Hinduism and its Impact）」：ヒンドゥー教とその影響の意味が改めて見直された際にスワーミージが果たした役割は、人類の歴史を大きく変えたと言える。シスター・ニヴェディータはヒンドゥー教がスワーミージの介在により創造されたと主張したが、同師はこれを知った当初の驚きを回想した。スワーミージは目新しいことを説いたわけではなく、『ウパニシャッド』に書かれたことでもなく、ヒンドゥー教徒がまだインドに閉じ込められていた時代に、ヒンドゥー教徒であることの普遍的側面に光を当てる新たな言語を使っただけなのだ。「名もなく、協会にも属さない宗教」に「共通の名前を見つける」ことすら難しかった時代に、そのような宗教に土台となる「共通の基盤」を見出そうとしたのである。

Swami Yuktatmananda（Ramakrishana-Vivekananda Center of New York）「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ：東西世界の架け橋（Swami Vivekananda: a Bridge between the East and the West）」：宗教とは「動物の（感覚中心の）生き方から人間を経て、遂には神の（非自己的な）性質へと人格を変化」させるものだと定義し、これは文明の目指すゴールでもあると述べた。

Swami Shantarupananda（Vedanta Society of Portland）「ヴィヴェーカーナンダの果たした人類への貢献（Vivekananda's Contribution to Humanity）」：スワーミージが、本質的自由についての自身のメッセージをキリスト教のものにもヒンドゥー教のものにもしなかったことに着目し、これがアメリカという国の特徴でありそれ故アメリカの心に響いたことを述べた。また、西洋の知識人らがスワーミージを評して述べた様々な賞賛の言葉を引用した。

Swami Tyagananda（Ramakrishna Vedanta Society of Boston）「強さに対するスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの視点（Swami Vivekananda's Perspective on Strength）」：スワーミージが強さに対して抱いていた視点は、同師が『ウパニシャッド』から受け取るメッセージ、すなわち、真我は弱い者には達せられないというものである。人は自身の内外両方の変化に対処することができないため、恐れや漠然とした不安が生じ、真我が勇気という形で現れることを妨げる。このような不安を持つのは何かの病気にかかっているせいだというわけではなく、誰もが経験する一般的なもので、若年期には罪悪感、中年期には空虚感、老年期には死の恐怖として現れる。スワーミージは著作の中で、「君自身の運命の創造者は君である」という力強い言葉を投げかけている。

Swami Baneshananda（Vedanta Society of Germany）「普遍のヴィヴェーカーナンダ（The Universal Vivekananda）」：「我々は西洋で始まりインドで終わる」というトインビーの言葉を引用し、人類の中心や本質的自由を「普遍のヴィヴェーカーナンダ」に向けた、近現代の様々な思想家らを挙げた。

スワーミー・メーダサーナンダ「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダによる『完全な人』のコンセプト（Swami Vivekananda's Concept of a Perfect Man）」：6名の日本人信者と共に出席した同師は、スワーミージが「日の昇る国」を経てアメリカに来たことに言及し、「まず私を（完全な人として）理解すれば、ラーマクリシュナを（神性の化身として）理解するだろう」という言葉を引用した。霊性の教師は自身の限られた道だけを強調するが、ラーマクリシュナはすべての道を肯定する未来の人間である。スワーミージの使命は、自身の考えた「型」で新しい種類の人間を作ることだった。その型とは、ラーマクリシュナ・ミッションのために自身がデザインした白鳥のロゴに、その構成要素が表現されている。信じやすい聴衆に催眠術でもかけてだまそうとしているのではないかという疑いに対抗して、スワーミージはこう言い返した。「私は皆さんの催眠を解こうとしているのです。」スワーミージの「ショック療法」は、静観の静けさ（サットワ）を（過度に）活動的な（ラジャス）西洋に説き、ラジャスを怠惰で無関心な（タマス）インドに説くものだった。これは、今なおインドの若者の心を魅了して止まない。「ブッダのハートとシャンカラの知性を兼ね備えなさい。」同師は、社会を変える方法に関するマーフィーの5つの法則を、ナスレッディン・ホジャのようなユーモアを以て笑いながら提示した。

Swami Ishtananda（Vedanta Center of St. Petersburg, Florida）「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ：集中力の化身（Swami Vivekananda: The Embodiment of Concentration）」：アメリカの子供たちが、川の水面をゆらゆらと流れていく卵の殻を狙って、橋の上からライフルを撃つが全く当たらないのを見て、スワーミージは笑った。それなら当ててみろと言われたスワーミージは、それまで一度も銃など撃ったことがないのに12発中12発を的中させ皆を驚かせ、「すべての力は精神の集中にある」と言った。またSwami Akhandanandaは、図書館からよく本を借りて翌日返しに行ったが、本当に読んだのか疑う係員に本の内容をそらんじて驚かせた。その並外れた記憶力の裏にあるのは、集中力であった。

Swami Amarananda（Vedanta Centre, Geneva, Switzerland）「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダによる東洋への貢献（Swami Vivekananda's Contribution to the East）」：スワーミージが東洋に対して果たした貢献は画期的と言えるだろう。スワーミージは現代の人々のために、ヒュームのような急進的な懐疑論を学ぶことで不可知論的疑念を経験した。スワーミージはヒンドゥー教よりもヴェーダーンタについて論じ、「伝統墨守」ではなく、幼児婚のような因習を非難していた。化石化した因習の代わりとなる新しい法典（dharma shastra）を書きたかったのである。教育を重視し、特に、『ウパニシャッド』のGargiやMaitreyiの例を挙げ女性の教育を重んじていた。また、「イスラム教の体とヴェーダーンタの頭」をベースとする、ヒンドゥー教徒とイスラム教徒のよりよい関係を目指していた。

Swami Tattwamayananda（Vedanta Society of Northern California）「ヴィヴェーカーナンダの哲学とその実践に必要なこと（Vivekananda's Philosophy and What We Need to Do to Implement It）」：霊的普遍主義の統一的原理に焦点を当て、西洋の人間主義について、聖アウグスチヌスからその原点であるギリシャ哲学までさかのぼって検討した。統合と調和をめぐる宗教的思想の歴史におけるこのパラダイムの変化に影響を受けた者は、他者を傷つけることができない。

Swami Sarvadevananda（Vedanta Society of Southern California）「多様性における霊的統一に対するスワーミー・ヴィヴェーカーナンダの貢献（Swami Vivekananda's contribution to Spiritual Unity in Diversity）」：将来の霊性は、様々な聖典の伝統から生じ様々な聖典の伝統を経て到達するものの、宗派にとらわれることはなく、これこそが創造の計画である。統一の達成は、統一がすでにすべての中に存在していると見なすことで可能となる。

Swami Sarvarupananda（Ramakrishna Mission, Colombo, Sri Lanka）「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ：無私の行為の化身（Swami Vivekananda: the Embodiment of Selfless Action）」：「私は、あらゆる所にいる人が神に到達できるまで彼らの霊性を鼓舞するだろう。私は貧しい者であり、貧しい者たちを愛している。もう一人のヴィヴェーカーナンダだけが私を理解できただろう」という言葉を引用し、霊的集団、社会的集団、一般大衆という3つのレベル分けをしてその違いを明らかにした。

Swami Kripamayananda（Vedanta Society of Toronto）「神の恩寵を受けヴィヴェーカーナンダを助けた数人のアメリカ人（A few blessed Americans who helped Vivekananda）」：スワーミージが「今ここに我々と共にいる」と宣言し、ケイト・サンボーン、ジョージ・W・ヘイル夫人、シスター・クリスティーン、サラ・ブル、サラ・エレン・ワルドー、ジョセフィーン・マクラウドのような人々が果たした運命的役割を列挙した。彼らは、スワーミージが逝去した後2年間気力を失っていた。

Swami Nirmalatmananda（Ramakrishna Vedanta Ashrama, Brazil）「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ：叡智の化身（Swami Vivekananda: the Embodiment of Knowledge）」：スワーミージの教えや著書を通じて、ハートと心を結びつける必要性を述べた。

Pravrajika Brahmaprana（Ramakrishna Vedanta Society of North Texas）「スワーミー・ヴィヴェーカーナンダ：信仰心の化身（Swami Vivekananda: The Embodiment of Devotion）」：直接のビジョン（ダルシャナ）から生まれるスワーミージのバクティは、内なる叡智をその礎としていたが、ラーマクリシュナは外はギャーナ、中はすべて信仰心であった。カーリー母神とのつながりを得た2年後に逝去したラーマクリシュナはナレンを、単なる「完全な人」（シッダ・プルシャ）というよりも魂の救済者と見なしていた。スワーミージは、兄弟僧達から信仰心を十分大切にしていないと批判されて、こう言い返した。「君たちのバクティは、センチメンタルでばかげている。私はラーマクリシュナのことを考えたり話したりすると、圧倒されてしまうのだ。」

Swami Suhitananda（General Secretary of the Ramakrishna Mission）：初めに、シカゴへの発表・案内がわずか数か月前であったにもかかわらずこのようなイベントをまとめ上げ成功させたことに対して、Swami Ishatmanandaを賞賛した。そして、Swami Vireshanandaがドゥルガー・プージャ用基金を洪水被害の支援金として献金したことに触れ、ラーマクリシュナ・ミッションでは神よりも人を上位に置いていると宣言した。「ラーマクリシュナ・ミッションは、想像力溢れる希有な人々で構成されている。彼らは、人に対して『君は人間だ』と宣言することさえできれば他に何の資格も必要ない。」ミッションの172の支部は拡大を続けている。また、この記念式典について、ヴィヴェーカーナンダは150年後に復活するというニヴェディータの予言に触れ、次の言葉を引用した。「この幼い（アメリカの）子供たちはどんなことでもすべてできるのです。もしもう一度女性に生まれるのなら、私はアメリカ人に生まれたい。」それ以来、スワーミージのアイディアは思想のあらゆる面に染み渡った。スピーチの最後に同師は、現代の世界的指導者らがスワーミージと彼が創設したミッションに対して表した敬意の言葉を引用した。

「シカゴ・コーリング」の最終日である9月11日、シカゴ・センターはスワーミージにまつわる様々な場所を巡る観光ツアーを行いました。見学場所には、スワーミージがかの有名なシカゴの演説を行ったArt Instituteも含まれていました。

記念式典1日目に関するレポートは、Asian Media USAの記事から抜粋させていただきました。Asian Media USAに感謝の意を表します。次号のニュースレターでは、「シカゴ・コーリング」に参加した日本人信者の方からいただいた、プログラムの様子や印象などについてのレポートを掲載する予定です。